

小規模多機能型居宅介護「令和5年度サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 星隆会	代表者	田中朝美	法人・事業所の特徴	法人としては家庭的な雰囲気を大事に、園児、高齢者、家族、その「ひとりひとりに寄り添う」ことを大事にしている。建物に木を多用したやわらかい雰囲気の中で、小規模で家庭的な暖かさを大事にしながら、通い、訪問、泊まりの3つのサービスを柔軟に組み合わせて、ご利用者が安心して地域の中で生活を継続できるよう支援にあたっている。また認知症を持つ人への非薬物的療法的な効果を期待して音楽、ニュースポーツ、ゲーム、クラフト、回想などアクティビティの充実に努めている。
事業所名	小規模多機能ホーム きいちご倶楽部	管理者	楯野義浩		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所スタッフ	その他	合計
	1人	2人	1人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	それぞれの自己評価での改善点について話し合う機会を作り、意見交換をする事により良いサービスに繋げる。	自己評価について意見交換は時間の都合上出来なかった。 月に1度か2度機会を設けたが、少人数しか集まらず、意見集約には至らなかった。	・見ていた訳ではないが、人数欄に13名との記載もあるので、13名でされたと感じる。	少人数でも、事業所自己評価での改善計画に沿っているかを話し合い、不参加の職員にも後日でも意見を求め、後で集約し全職員が同じ方向性を意識し統一されたサービス提供を目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進会議や伝えられる情報を通して事業所のしつらえ等を伝え意見助言を頂きながら改善をしていく。 運営推進会議のメンバーの方々年に一度はきいちご倶楽部にも訪問いただき、環境やしつらえ等を見ていただく。	・運営推進会議自体を当事業所でも3回開催でき、環境やしつらえも見て頂けた。 和風の玄関入口から広々としたリビングに良い環境で、利用者も使いやすくなっているのではと話していただいた。 ・地域の方にとって介護相談をしている場所との認識がないので、パンフレットに介護相談も行っている旨を強調していく必要がある。	・看板も立っているし、入り易い雰囲気になっていると思う。 ・来所された方々から意見を頂き職員間で話し合ったうえで改善を行う。 ・しつらえとは何か、分かりやすい問い掛けにして欲しい。	・運営推進会議の方々意見の頂いたり、職員間で見栄え良くなる方法を提案する等を行い、改善を行って行く。
C. 事業所と地域のかかわり	実情をよくご存じの地域代表の方と相談を重ね地域との関わりをもつ方法を探り、計画を周到に立て実施していく。 事業所にて催し物を開き、来所された時やお話に来られた時などに事業内容や介護相談を行っていることなどを周知する。	地域代表の方との相談が出来てなかった。事業所にて催し物を開催出来てない。また、当事業所にて催し物を開催出来たとして、地域の方々に周知する方法を、地域を代表する方との話し合いが出来てなかった。	・地域のかかわりあいイベントごとに何がしかの関わりを持つ工夫をするとい。 ・地域のかかわりあい手間と時間がかかるとい。 ・地域のかかわりあい時間をかけて確実に関わりを持てるように皆で考えることをしてみようか。	・外出レクに散歩等を取り入れ、なるべく地域の方々との交流が図れるようにする。 ・地域の方々との食事会を催してみる。 地域代表の方と相談し企画する。
D. 地域に出向いて利用者の暮らしを支える取組み	まずは、各自治会長様や民生委員、地域の代表の方々と接点を持ち、地域との繋がりを作っていく。 その上で、地域ときいちご倶楽部との接点の持ち方を双方で考え、地域に出向いて交流を図る。 また、ご利用者にも外出レクを通して、地域に出ていき楽しんで頂く。その中で地域の方との交流を図っていく。	・コロナの影響もあり、地域の催し物が中止や延期になって未だ再開の目途すら立っていない状況であった。地域代表の方との接点も持たず、前に進むことが出来ない。 ・外出レクは頻回に行うが、地域の方との接点は持たないでいた。	・家族や利用者本人にも参加してもらってもいいのではないかと。 ・地域に出向いてはいるが、その地域の方との交流がなかった。 ・自治会主催の催しが無くなってしまったものもあり、かかわりを持つことが難しくなっている。	・地域に出向いても催し物等が消失したり、地域で行っていた消防訓練も無くなってしまっている。 ・ないなら、小多機で地域住民を巻き込んだ企画を考える。(運動会やゲーム大会、軽飲食の提供等々)

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で出た意見を事業所会議の議題として取り上げ改善に努める。また、運営推進会議で出された課題に対して、改善策を話し合い、双方協働にて対策をたて実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・同会議内で出た意見は取り入れられるものは積極的に取り入れることが出来た。 ・但し、出来るかどうかの判断は必要で、実施にあたって話し合う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の事例検討や一緒に取り組むなどは出来ない。 ・出された意見や提案には前向きに取り組んでおられると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で出た意見は事業所内で、まず実施可能かを議論し、出来るようなら積極的に取り入れ改善していく。
F. 事業所の防災・災害対策	火災避難訓練および自然災害訓練を実施、実際に災害が発生しても、スムーズに人が人等を出さずに避難が出来るような緊張感のある訓練を行う。避難行動に必要な防災用品の整備に努める。	避難訓練を行うたびに、精度が上がった。人が人が出たといった想定訓練も行ったが、想定していた結果とはならず、職員全員が危機感を持った訓練にならないといけなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を巻き込んだ防災訓練は必要に思う。自らが地域住民を訓練に誘い、地域訓練との交流のきっかけを作るようにした方が良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や地域代表者に声掛けし、避難訓練の際には来所頂き様子を見て頂く。客観的な目線で意見を頂き改善に繋げる。